

第1回「市長と大盛トーク」詳細

開催日時：平成25年11月26日（火曜日）19時から20時30分

開催場所：市役所第3会議室

テーマ：「地域の振興について」

第1回目は、桑田中学校区の皆さん15人が参加し、大森市長と意見交換しました。

大森市長 開会あいさつ

第1回大盛トークにご参加いただきまして、本当にありがとうございます。

直接市民の皆様方とお話しする機会を大切にしたいと思い、このような会を設けさせていただきました。色々な点についてお話をいただき、一緒に考え、それらをどうやって市政に反映するかは、また持ち帰らせていただいて、中でも議論させていただく、そんな形ですすめていただければと思います。よろしくお願いします。

参加者の皆さんの主な発言と市長の主な発言

○イオンモール岡山、西川緑道公園

参加者：イオンモール岡山の開業によって、生活道路へ車で出ようにも出られないようなことでは困ります。また、駅前の自転車の放置状況はひどく、回遊性という意味からあまり良くないと思っています。それに県外から客を呼ぶにすれば、姫路あたりから岡山に来る列車というのは、快速がありません。ぜひ快速列車を走らせてほしいものです。

西川緑道公園のトイレは、県外から来られた方がはたして気持ちよく入れるでしょうか。非常に寂しい思いがします。

もう1点、出石小学校が11年前に閉校になりました。学校がないというのは非常に寂しいことで、特に子どもたち、子どもたちの保護者の皆さんと地域との結びつきが薄くなったということを感じています。

参加者：パワーピープル21が15年間にわたり、星空祭りをしています。多くの皆さんに西川緑道公園へ来ていただいています。毎年開催する前にはトイレの掃除をします。トイレの鍵やいろんなものが壊され、放置されていて、見つけるたびに修理の連絡を入れています。

市長：トイレの話は、私が選挙のときに、「西川緑道公園のトイレだけは本当に汚いぞ、あれをきれいにすると、人が入ってくれる、歩いてくれる、変わってくるんだよ。」という話を聞いていて、市長になってから市のスタッフに言ったことがあります。やっぱり、トイ

レって重要だと思います。

これもどうやっていくかご相談ですが、本当に公だけでやっていくのがいいのか、市民の皆さんと一緒にきれいにしていくスタイルがいいのか、地元の皆様とよく話をしたい。今回も特にイオンが来るということで、私も中心市街地をどうやって人に歩きまわってもらうのか。また、自転車に乗って回遊してもらうのか。そういうことを進めていかなきゃいかんと思っていますが、そのなかで見落とされがちなものとして、今言ったトイレみたいなものがありますよね。ぜひ考えていきたいと思っています。

出石地区が鹿田学区、中央学区と分かれ、地域との関係に希薄さが出てくるということはあると思います。こどもたちが何を考え、また保護者がどうしたいのかというのがありますね。

参加者：先程の件に関連して、枝川にもトイレがありますが、春日町の人とか市の方も掃除していただいています。非常にきれいで、「これはいいところですね。」と大学病院に見舞いに来られた人からお礼を言われます。ただ、樹木がたくさんあり、枝が道路から家のほうに伸びたりしています。

今の時期、ものすごい落ち葉で、たくさん積もっているところで車がスリップして交通事故が起こるんです。

大学町町内会は月曜日と木曜日の朝、4、5人で清掃しています。高齢の女性が2～3人でやっている町内会もある。そのあたり少し何とか考えていただき、枝の剪定をやっていただければありがたいなと思います。

市長：お年寄りが多くてという話はよく聞いています。大変でしょうから、たとえば一緒になって共同で行うとか、色々な工夫も必要になっているのだと思います。

私は昭和40年代ですけど、高校行くのに通っていましたが隔世の感がありますね。本当に良くなりましたね。良くなったら良くなつたなりにやっていかなければならないことも起こってきている。役所のお金というのは、これは税金ですから、孫、子の代にツケを残さないようにしなければならぬ。そこはどういうふうにするのが一番いいのか、いろいろな民間の方と役所と一緒に相談しながら、バランスをとりながら、みんなで良くしていくというのにも必要ではないかという気もします。

○幼稚園、児童クラブ（学童保育）

参加者：私は、鹿田幼稚園のPTA役員をしています。保護者として公立幼稚園は、町内会長さん、交通安全母の会の方や地域の方との繋がりが本当に強いと思います。小学校に上がってもうまくいくような仕組みになっていて、すごく親として安心できます。

市長：保護者の方の立場からはそうですね。そこはよくわかります。小学校に入ったとき

は幼稚園の仲間という意識があるでしょうね。

参加者：学童保育の鹿田バンビクラブは最初28人くらいでしたが、今は約100人になっています。保育園と同じくらい、これからニーズが高まってくると思います。入れない子どもたちもいますが、市からの補助や学童家庭の負担金の中でやりくりしながら頑張っています。

参加者：私も学童保育の大元クラブ運営委員をしています。今年も130名くらいの申込がありました。実際入れるのは91名くらいしか入れないんです。

参加者：私も鹿田バンビクラブの役員をしています。施設がものすごく狭いんです。皆が入るとものすごくいっぱい、夏休みなどは4年生も何人か受け入れるように去年からなったのですが、いっぱい先生も大変です。

参加者：学校によっては、敷地に余裕があって施設を増やす学校もあると聞いています。大元小学校は運動場が広くないので増やすことができないから、近所のコーポを借りています。家賃は預けている保護者が負担するので、負担金を月に八千円も九千円も払っている状況です。

市長：これは岡山っ子育成局が担当してやっているんですが、担当部署は相当真剣に、全部リストアップしてやっています。なんとかならないかと一生懸命考え抜いても、本当に余裕があるところはあるが、ないところはない。その現実を何とかしろというのはわかりますが、今からでも、ひとつひとつ相談しながら詰めていかないといけないと思います。ただ、担当部署は本当に真剣に考えているというように私は感じています。

参加者：桑田中学校は、今、耐震等で建て替える新校舎の設計段階で、6階建てが建つ予定です。当然、公立市立の中学校の6階建ては岡山県下にはありませんし、全国的にも珍しく、中高一貫校は別にしても他に例はあまりないと思います。

それで、いろいろ学校の先生にも設備の要望をしたのですが、岡山市の普通教室には幼稚園、小学校、中学校ともにクーラーが設置されていないんです。これを機会に設置していただきたいと要望したところ、「前例がない」と断られました。桑田中学校だけを特別扱いになってはいけないんですが、6階建てなのでどうにか設置して欲しいとPTAとして思っています。

○防災意識

参加者：最近、南海・東南海大震災の被害予測が出されています。皆に呼びかけて大元学

区で自主防災組織を結成いたしました。これから防災に関する訓練なり情報提供なりを行っていかねばならないと思っておりますが、防災に対する意識の向上策など市からアドバイスをいろいろといただきたいと思えます。

市長：私は政府の防災責任者をやっていた頃、地震、雨で激しく被災した所に行きました。亡くなった方の親族の方々とお話する機会が結構あって、どなたも「ここで災害が起こるなんて」とおっしゃっていました。

ちなみに南海トラフ地震というのはプレート型の地震です。もう一つが直下型の地震で、活断層が原因で起こるものです。文部科学省が活断層地図を作成し、活断層がある所を表示していますが、そういった所で直下型の地震は起こっていないんです。本当にどこで起こるかわからないので、自主防災組織を作っていただくというのは本当に素晴らしいことです。地域のつながりにつなげていきたいということもあるようですから、防災組織を見直す必要があるかもしれません。

参加者：町内会主催で消防署の人を講師として、防災訓練の話をしてもらいました。岡山は災害が少ないものですから、大勢の方に声をかけて回ったのですが、参加者は多くありませんでした。岡山の人には本当に人情がうすく、災害のことに関心がないと思えます。広報紙に、「地震は恐ろしいもので、隣同士が助け合わないと生きていけない。」ということを書いていただきたいと思えます。

市長：そう思っているんですね。この前ある方がお話ししていましたが、晴れの国岡山って言ってますよね。岡山は、確かに晴れの日数、1ミリ以下の降水量の日数が一番多い。しかし、河川の被害は多いんです。ですから、地震は確かに少ないですが、防災と言っても、別に地震だけではなく水害も考える必要があります。

○交通安全、交通マナー

参加者：交通安全対策協議会は、子供と高齢者の事故防止に力を入れていて、ここ数年、街頭啓発や地域の学習教室を中心に活動しています。それぞれの学区で交対協が独自で取り組んでいて、学区同士で横の連携が弱い状態です。

また、市の交通安全室が担当窓口になっているんですが、春と秋の交通安全期間以外ではほとんど何の指示も指導もありません。特に私が思うのは、市民各個人の交通安全に対するモラル、マナーの意識ということについて、それぞれの家庭まで浸透するような対策が何かできないだろうかと思っています。

市長：きめの細かさが必要ですね。特に私も東京から岡山に戻ってきて感じたのは、自転車が多くて、自転車の運転マナーが悪いなということでした。

参加者：岡山県人は「非常に交通安全に対するモラルが低い」と警察からよくいわれます。いくら交通安全啓発のビラを配っても、新聞に交通安全の記事が出ていても、テレビで放映されてもどうにもならないという気がします。何かいい対策はないものかと思います。

参加者：大人が良い見本を示さないと、子どもたちに交通安全のマナーが身につかないと思うので、春・秋の交通安全運動週間を利用して、幼稚園の子どもたちと保護者の方にも参加していただいて、マナーアップの手書きのお手紙をドライバーの人に配ったりしています。

○マンションと町内会

参加者：大元学区では地域おこしに何かしたいと話し合い、サマーフェスタと銘打って平成12年からイベントを開催しています。市から区づくり推進事業の指定を受けて実施しており、補助金をいただき非常に助かっています。

参加者：町内会にマンションの住人の方々が入っていれば、お祭りがにぎやかにできると思っています。マンションの住人を取り込んでいない町内会は、だんじりを引っ張る人間が集まりません。マンションの住人の方々といっしょに町内会をやっていくほうが活発になっていいと思っています。

参加者：マンション建設のときの最初の第一歩が肝心ですね。地元の町内会としても、「うまいことこれからいっしょにやっっていこうね」という姿勢をみせないで、途中からやトラブルになってからやっても駄目ですね。

参加者：町内会に入っていないマンションがあっても、そこに住んでいる子どもたちが地元のおじちゃん、おばちゃんと仲良くなる機会はあると思います。学校からのたよりなどを通じて潤滑油になるのが、PTAの役割だと思います。

市長：マンションに住んでいる人はひとりずつ意思が違って、町内会の活動をあまりしたくない人もいるかもしれませんが、相当数の方はやはりいっしょになって活動していると思っています。少なくとも、参加したいと思っている人が参加できないと、かわいそうだと思います。

参加者：地域の皆様、特に年配の方たちが、子どもたちが学校へ行く通学路に自然と立ってくれています。交通安全母の会の皆さんをはじめ、たくさんの方々に関わってくれています。PTAに入って初めて知り、すごいなと感じています。

参加者：今日、こうした会合を開いていただきありがとうございました。

市長：こちらこそ勉強になりました。本当に今日はありがとうございました。